

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月3日

上場会社名 株式会社 ファンケル

市場取引所 東

コード番号 4921 URL <http://www.fancl.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 成松 義文

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理・総務・人事ユニット長 (氏名) 江上 克彦

TEL 045-226-1200

四半期報告書提出予定日 平成21年2月12日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	75,217	—	4,869	—	5,050	—	2,384	—
20年3月期第3四半期	75,556	1.8	6,033	4.9	6,151	4.9	3,041	△15.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	38.91	38.82
20年3月期第3四半期	47.61	47.34

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	85,022	70,977	83.0	1,151.48		
20年3月期	85,685	70,268	81.6	1,141.56		

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 70,562百万円 20年3月期 69,899百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	12.00	—	12.00	24.00
21年3月期	—	17.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	17.00	34.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	98,700	△0.7	7,000	△6.3	7,000	△9.9	3,400	△8.0	55.48

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1)期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

新規 一社(社名) 除外 一社(社名)

(2)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3)四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、5～6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 65,176,600株 20年3月期 70,176,600株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 3,896,653株 20年3月期 8,944,863株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 61,273,503株 20年3月期第3四半期 63,885,907株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年11月4日に公表いたしました通期の連結業績予想について、本資料において修正しております。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。次期の見通しについては、5ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

3. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針(企業会計基準適用指針第14号)」を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。なお、四半期連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を適用しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、欧米金融危機に端を発した金融市場の混乱および世界的な経済の減速を受け、円高による企業収益の悪化、設備投資の見直し、雇用の調整などが進行し、景気の後退感が鮮明となりました。

このような状況の下、化粧品業界は基礎化粧品に多少の伸長がみられたものの、全体としては横ばい傾向にあります。

また、健康食品業界は依然として調整局面が続くなかで、企業間格差がますます顕著になりつつあります。

当第3四半期累計期間の売上高は、化粧品関連事業は主力製品のリニューアルなどにより好調に推移しましたが、栄養補助食品関連事業やいいもの王国通販事業などのその他事業が不振で、75,217百万円（前年同期比0.4%減）となりました。損益面では、発芽米事業や青汁事業などその他事業の損益は改善しましたが、主力の化粧品関連事業と栄養補助食品関連事業が減益となったことより、営業利益は4,869百万円（前年同期比19.3%減）、売上高営業利益率は1.5ポイント低下し6.5%となり、経常利益は5,050百万円（前年同期比17.9%減）、売上高経常利益率は1.4ポイント低下し6.7%となりました。

土地・建物に係る減損損失178百万円などの特別損失を計上したため、四半期純利益は2,384百万円（前年同期比21.6%減）、売上高四半期純利益率は前年同期より0.8ポイント低下し3.2%となりました。

(1) 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は38,091百万円（前年同期比2.9%増）となりました。

	平成20年3月期 第3四半期累計期間		平成21年3月期 第3四半期累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	28,887	78.1	29,439	77.3	1.9
アテナ化粧品	7,829	21.1	7,806	20.5	△ 0.3
その他	286	0.8	845	2.2	194.7
合計	37,003	100.0	38,091	100.0	2.9

	平成20年3月期 第3四半期累計期間		平成21年3月期 第3四半期累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	19,644	53.1	20,031	52.6	2.0
店舗販売	13,345	36.1	13,217	34.7	△ 1.0
卸販売他	4,013	10.8	4,843	12.7	20.7
合計	37,003	100.0	38,091	100.0	2.9

ファンケル化粧品は、リニューアル効果により基礎化粧品や洗顔パウダーが好調で、29,439百万円（前年同期比1.9%増）となりました。

アテナ化粧品は、積極的な広告宣伝活動を行いました。顧客数の増加につながらず、7,806百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

販売チャネル別では、通信販売は20,031百万円（前年同期比2.0%増）、店舗販売は店舗数の減少により13,217百万円（前年同期比1.0%減）、卸販売他チャネルは海外向けが好調で4,843百万円（前年同期比20.7%増）となりました。

営業損益

損益面では、新規顧客獲得を図るため広告宣伝費を積極投下したことなどにより、営業利益は4,909百万円（前年同期比15.8%減）、営業利益率は前年同期に比べ2.9ポイント低下し12.9%となりました。

(2) 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は22,511百万円（前年同期比1.9%減）となりました。

	平成20年3月期 第3四半期累計期間		平成21年3月期 第3四半期累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	10,293	44.9	9,940	44.2	△ 3.4
店舗販売	6,564	28.6	6,127	27.2	△ 6.7
卸販売他	6,080	26.5	6,443	28.6	6.0
合計	22,938	100.0	22,511	100.0	△ 1.9

製品面では、積極的なマーケティング活動を行ったHTCコラーゲンなどビューティサプリメントは好調でしたが、ビタミン、ミネラル、ハーブなどそれ以外の製品群の売上減少をカバーするには至りませんでした。

販売チャネル別では、通信販売は9,940百万円（前年同期比3.4%減）、店舗販売は店舗数の減少に加え既存店が不振で6,127百万円（前年同期比6.7%減）、卸販売他チャネルは海外向けが好調で6,443百万円（前年同期比6.0%増）となりました。

営業損益

損益面では、減収による利益減と販売促進費などの費用の増加により、営業利益は2,224百万円（前年同期比19.8%減）、営業利益率は前年同期に比べ2.2ポイント低下し9.9%となりました。

(3) その他事業

売上高

その他事業の売上高は14,614百万円（前年同期比6.4%減）となりました。

	平成20年3月期 第3四半期累計期間 (百万円)	平成21年3月期 第3四半期累計期間 (百万円)	伸び率 (%)
発芽米事業	2,840	2,806	△ 1.2
青汁事業	2,880	2,790	△ 3.1
いいもの王国通販事業	6,847	6,387	△ 6.7
その他の事業	3,047	2,630	△ 13.7
合計	15,615	14,614	△ 6.4

発芽米事業は、コンビニエンスストアのおにぎり、弁当などの業務用は拡大しましたが、顧客数の減少により通信販売が減少し、売上高は2,806百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

青汁事業は、冷凍タイプが不振で、売上高は2,790百万円（前年同期比3.1%減）となりました。

いいもの王国通販事業は、カタログでの販売が不振で、売上高は6,387百万円（前年同期比6.7%減）となりました。

その他の事業は、肌着の販売が不振で、売上高は2,630百万円（前年同期比13.7%減）となりました。

営業損益

損益面では、いいもの王国通販事業の損益は悪化しましたが、発芽米事業や青汁事業の損益が改善したことにより、営業損失は前年同期に比べ346百万円縮小し654百万円となりました。

[ご参考：業態別店舗数]

	平成20年12月末	前期末比
ファンケル銀座スクエア	1	—
ファンケルショップ（次世代店舗）	13	+6
ファンケルハウス	96	△4
ファンケルハウスJ	78	△9
元気ステーション	5	△3
アテニアショップ	13	+2
その他	3	△1
合計	209	△9

※ 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。したがって、当第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書と前年同期の四半期連結損益計算書とは作成基準が異なるため、前年同期比較に関する情報は参考として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産は前連結会計年度末に比べ663百万円減少し、85,022百万円となりました。この要因は流動資産の減少1,965百万円及び固定資産の増加1,301百万円であります。

流動資産の減少の主な要因は、ニコスタービューテック(株)での事業譲受に伴う支出および長期定期預金の預入の実施により有価証券を取り崩したことや、在庫圧縮に努めたことによるたな卸資産の減少などであります。

固定資産の増加の主な要因は、ニコスタービューテック(株)の設立に伴う工場取得や事業譲受を実施したことおよび新物流センターのシステム整備などにより有形固定資産および無形固定資産が増加したことによります。また、長期定期預金の預け入れにより投資その他の資産が増加しました。

負債は前連結会計年度末に比べて1,372百万円減少し、14,044百万円となりました。この要因は、流動負債の減少1,540百万円と固定負債の増加168百万円であります。

流動負債の減少は、未払法人税等や賞与引当金が減少したためであります。固定負債は、役員退職慰労金の支給による長期未払金の減少があったものの、新しく子会社を連結したことに伴う繰延税金負債の計上があったため、増加となりました。

純資産は、前連結会計年度末と比較して708百万円増加し、70,977百万円となりました。この主な要因は、四半期純利益の計上によるものであります。また、自己株式を消却したことにより、資本剰余金が159百万円、利益剰余金が6,206百万円、自己株式が6,365百万円それぞれ減少しております。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末と比較して1.4ポイント改善し83.0%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は22,251百万円となり、前連結会計年度末より1,809百万円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は3,347百万円となりました。この内訳の主なものは税金等調整前四半期純利益4,513百万円、減価償却費2,319百万円などによる増加と、法人税等の支払額3,293百万円などによる減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3,326百万円となりました。これは主に、有価証券の取得による支出7,983百万円、新規およびリニューアル店舗用設備などの有形固定資産の取得による支出1,539百万円や、ニコスタービューテック(株)の設立に伴う営業譲受による支出1,315百万円などによる減少と、有価証券の売却及び償還による収入7,997百万円などによる増加であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1,812百万円となりました。これは主に、配当金の支払額1,753百万円の支出などによるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の状況を勘案し、平成20年11月4日付で発表した業績予想を下記の通り修正いたします。

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)
前回発表予想(A) (平成20年11月4日発表)	100,000	7,800	8,000	3,800
今回修正予想(B)	98,700	7,000	7,000	3,400
増減額(B-A)	△1,300	△800	△1,000	△400
増減率(%)	△1.3%	△10.3%	△12.5%	△10.5%
前期実績(平成20年3月期)	99,349	7,467	7,765	3,694

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

なお、四半期連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を適用しております。

- ② 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によって算定しております。

また、上記の会計基準の適用にあたって、従来は営業外費用に計上していた「たな卸資産廃棄損」を、第1四半期連結会計期間より売上原価に含めております。

これらの変更により、当第3四半期連結累計期間においては、従来の方によった場合に比べて、営業利益が238百万円、経常利益が7百万円及び税金等調整前四半期純利益が41百万円それぞれ減少しております。

セグメント情報に与える影響は、5. 四半期連結財務諸表(5)セグメント情報をご覧ください。

- ③ 第1四半期連結会計期間から、機械装置の耐用年数については法人税法の改正を契機として見直しを行い、一部の資産について耐用年数を変更しております。

なお、この変更に伴う当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

- ④ 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一分会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

この変更に伴う当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引続き採用しております。

- ⑤ 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会 平成18年5月17日 実務対応報告第18号)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

この変更に伴う当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,726	16,551
受取手形及び売掛金	10,942	10,053
有価証券	9,518	13,508
商品及び製品	3,237	3,229
仕掛品	53	78
原材料及び貯蔵品	3,206	3,402
その他	2,573	2,338
貸倒引当金	△221	△159
流動資産合計	47,037	49,003
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,814	21,140
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,619	△10,112
建物及び構築物(純額)	11,195	11,028
機械装置及び運搬具	5,472	5,419
減価償却累計額及び減損損失累計額	△3,980	△4,014
機械装置及び運搬具(純額)	1,491	1,404
工具、器具及び備品	5,921	5,724
減価償却累計額	△4,788	△4,639
工具、器具及び備品(純額)	1,133	1,085
土地	11,000	10,901
その他	113	74
有形固定資産合計	24,934	24,494
無形固定資産		
のれん	947	738
その他	3,062	2,953
無形固定資産合計	4,010	3,692
投資その他の資産	9,039	8,496
固定資産合計	37,984	36,682
資産合計	85,022	85,685

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,072	3,599
未払法人税等	416	1,865
賞与引当金	534	1,037
ポイント引当金	1,461	1,496
その他	4,927	4,954
流動負債合計	11,412	12,953
固定負債		
退職給付引当金	1,763	1,642
役員退職慰労引当金	57	46
その他	810	773
固定負債合計	2,631	2,462
負債合計	14,044	15,416
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,795	10,795
資本剰余金	11,706	11,861
利益剰余金	53,017	58,608
自己株式	△4,960	△11,387
株主資本合計	70,557	69,877
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9	27
為替換算調整勘定	△4	△4
評価・換算差額等合計	4	22
新株予約権	310	275
少数株主持分	104	94
純資産合計	70,977	70,268
負債純資産合計	85,022	85,685

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	75,217
売上原価	24,894
売上総利益	50,322
販売費及び一般管理費	45,453
営業利益	4,869
営業外収益	
受取利息	120
受取配当金	13
雑収入	164
営業外収益合計	298
営業外費用	
支払利息	0
為替差損	50
雑損失	66
営業外費用合計	116
経常利益	5,050
特別利益	
固定資産売却益	31
貸倒引当金戻入額	36
償却債権取立益	10
その他	23
特別利益合計	101
特別損失	
固定資産売却損	49
固定資産除却損	155
減損損失	178
その他	255
特別損失合計	638
税金等調整前四半期純利益	4,513
法人税、住民税及び事業税	1,741
法人税等調整額	378
法人税等合計	2,119
少数株主利益	10
四半期純利益	2,384

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	26,635
売上原価	9,029
売上総利益	17,606
販売費及び一般管理費	15,705
営業利益	1,900
営業外収益	
受取利息	33
受取配当金	0
雑収入	46
営業外収益合計	81
営業外費用	
為替差損	39
雑損失	25
営業外費用合計	65
経常利益	1,916
特別利益	
固定資産売却益	21
貸倒引当金戻入額	36
その他	△0
特別利益合計	56
特別損失	
固定資産売却損	35
固定資産除却損	82
その他	204
特別損失合計	323
税金等調整前四半期純利益	1,649
法人税、住民税及び事業税	318
法人税等調整額	291
法人税等合計	610
少数株主利益	1
四半期純利益	1,038

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	4,513
減価償却費	2,319
減損損失	178
株式報酬費用	87
のれん償却額	111
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△69
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△502
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△34
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	120
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	11
受取利息及び受取配当金	△133
支払利息	0
為替差損益 (△は益)	30
投資有価証券評価損益 (△は益)	95
関係会社株式評価損	59
固定資産売却損益 (△は益)	17
固定資産除却損	155
売上債権の増減額 (△は増加)	△891
たな卸資産の増減額 (△は増加)	300
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△223
仕入債務の増減額 (△は減少)	471
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	81
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△247
その他	80
小計	6,532
利息及び配当金の受取額	107
利息の支払額	△0
その他の収入	0
法人税等の支払額	△3,293
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,347

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年12月31日)

投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,000
定期預金の払戻による収入	1,000
有価証券の取得による支出	△7,983
有価証券の売却及び償還による収入	7,997
有形固定資産の取得による支出	△1,539
有形固定資産の売却による収入	203
無形固定資産の取得による支出	△798
関係会社株式の取得による支出	△36
営業譲受による支出	△1,315
貸付けによる支出	△30
貸付金の回収による収入	13
その他の支出	△81
その他の収入	260
その他	△17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,326
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△48
自己株式の処分による収入	3
自己株式の取得による支出	△1
配当金の支払額	△1,753
その他	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,812
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,809
現金及び現金同等物の期首残高	24,060
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,251

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

なお、四半期連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を適用しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報
[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	13,282	8,019	5,333	26,635	—	26,635
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	13,282	8,019	5,333	26,635	—	26,635
営業利益又は営業損失(△)	1,879	542	△118	2,303	(403)	1,900

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	38,091	22,511	14,614	75,217	—	75,217
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	38,091	22,511	14,614	75,217	—	75,217
営業利益又は営業損失(△)	4,909	2,224	△654	6,478	(1,609)	4,869

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

- (1) 化粧品関連事業……各種化粧品の通信販売・店舗販売・卸販売
- (2) 栄養補助食品関連事業…各種栄養補助食品の通信販売・店舗販売・卸販売
- (3) その他事業………雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業
他

3 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更」の②に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。

上記の会計基準の適用に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益は化粧品関連事業103百万円、栄養補助食品関連事業106百万円、その他事業27百万円それぞれ減少しております。

〔所在地別セグメント情報〕

当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

全セグメントの売上高の合計額に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成20年11月4日開催の取締役会において会社法第178条の規定に基づき自己株式5,000,000株の消却を決議し、平成20年11月28日付で実施いたしました。これにより、資本剰余金が159百万円、利益剰余金が6,206百万円、自己株式が6,365百万円それぞれ減少しております。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)

科目	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
	金額(百万円)
I 売上高	75,556
II 売上原価	24,615
売上総利益	50,940
III 販売費及び一般管理費	44,907
営業利益	6,033
IV 営業外収益	464
受取利息及び配当金	109
その他営業外収益	355
V 営業外費用	346
たな卸資産廃棄損	259
その他営業外費用	87
経常利益	6,151
VI 特別利益	6
VII 特別損失	316
固定資産処分損	29
その他特別損失	287
税金等調整前四半期純利益	5,841
税金費用	2,799
四半期純利益	3,041

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

前第3四半期連結累計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)

	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
区分	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	5,841
減価償却費	2,229
減損損失	—
賞与引当金の増減額(減少:△)	△435
退職給付引当金の増減額(減少:△)	143
受取利息及び配当金	△109
有形固定資産処分損	26
売上債権の増減額(増加:△)	△1,313
たな卸資産の増減額(増加:△)	△75
その他の流動資産の増減額(増加:△)	△24
仕入債務の増減額(減少:△)	378
その他の流動負債の増減額(減少:△)	734
その他	△446
小計	6,948
利息及び配当金の受取額	119
法人税等の支払額	△3,569
その他	241
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,740
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△12,479
有価証券の償還による収入	14,485
有形固定資産の取得による支出	△859
無形固定資産の取得による支出	△721
その他の投資の取得による支出	△51
その他	△1,980
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,607

	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
区分	金額(百万円)
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得・売却による純収入(純支出:△)	△2,818
配当金の支払額	△1,405
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,224
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△5
V 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△2,096
VI 現金及び現金同等物の期首残高	23,411
VII 現金及び現金同等物の期末残高	21,314

(3) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高	37,003	22,938	15,615	75,556	—	75,556
営業費用	31,171	20,166	16,617	67,954	1,569	69,523
営業利益	5,832	2,772	△1,001	7,602	(1,569)	6,033

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

全セグメントの売上高の合計額に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。